

令和7年
2025年

6月20日
金曜日

第11737号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6カ月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
☎101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
☎550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
☎812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



常陸牛振興協会の通常総会が開催された……P3

- ▶ 令和7年7～9月の配合飼料供給価格は2200円値下げ—JA全農…………… P2
- ▶ [牛・豚肉の輸入数量予測]7月牛肉は5・6%減、豚肉は2・3%増か…………… P2
- ▶ 常陸牛振興協が通常総会、新会長にJA全農いばらぎの大和田氏を選任…………… P3
- ▶ 「2025数字でみる食肉産業」発刊、食肉に関するデータを網羅…………… P4
- ▶ [鶏肉輸入数量予測]7月は計4万5050tで13・0%減…………… P4～5
- ▶ 大阪・関西万博を記念し、ウルグアイ国立食肉協会らが「ウルグアイデー記念レセプション」を開催、業界関係者が参集…………… P5
- ▶ アイルランド政府がトレーディングミッション、東京と大阪の2都市…………… P5
- ▶ 大阪・関西万博カナダビーフセミナー③…………… P6
- ▶ 揚げたて総菜がリピーターを呼ぶ—リライズコンサルティングの調査報告…………… P7
- ▶ 伊藤ハムが一口サイズの「ゴロゴロサラダチキン」を新発売…………… P7
- ▶ 【輸入牛現物相場】豪州産Cはロイン、ランプがタイト…………… P8
- ▶ 【ブロイラー市中現物相場】国産生鮮ムネの引き合い強まる…………… P8
- ▶ [資料]日本食肉流通センター週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉…………… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]19日…………… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]19日…………… P11

注目のヘッドライン

令和7年7月～9月の配合飼料供給価格は2200円値下げ—JA全農

JA全農は19日、令和7年7～9月期の配合飼料供給価格を公表。飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和7年4～6月期に対し、全国全畜種総平均トンあたり約2200円値下げすることを決定した。

…詳細はP2

「2025数字でみる食肉産業」発刊、食肉に関するデータを網羅

…詳細はP4

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎(03)3919-2929 FAX(03)3919-2930
総務 / ☎(03)3919-2980 FAX(03)3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

令和7年7～9月の配合飼料供給価格は2200円値下げ—JA全農

JA全農は19日、令和7年7～9月期の配合飼料供給価格を公表。7～9月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、4～6月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約2200円値下げすることを決定した。なお、改定額は、地域別・畜種別・銘柄別に異なる。飼料情勢は次のとおり。

〔飼料穀物〕とうもろこしのシカゴ定期は、3月上旬には460セント/bu前後で推移していたが、4月10日米国農務省発表の需給見通しで米国産とうもろこしの期末在庫が市場予想を下回ったことなどから、4月中旬には490セント/ブッシェル前後まで上昇した。その後、南米産とうもろこしの豊作期待や米国産新穀とうもろこしの作付けが順調であることなどから下落し、現在は440セント/ブッシェル前後で推移している。

今後は、南米産地の作柄や米国産新穀の生育期の天候などに左右される相場展開が見込まれる。

〔大豆かす〕大豆かすのシカゴ定期は、3月上旬には330ドル/トン台で推移していたが、米国において大豆搾油量が堅調に推移していることに加え、南米産大豆の豊作見通しや、米国産新穀大豆の作付けが順調であることなどから下落し、現在は310ドル/トン台で推移している。国内大豆かす価格は、為替円

高の影響やシカゴ定期の下落などから値下がりが見込まれる。

〔海上運賃〕米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、2月上旬には47ドル/トン前後で推移していたが、原油相場が下落したことなどから、3月上旬には45ドル/トン前後まで下落した。その後、航海日数の長い中国向けの南米産大豆の輸出が堅調に推移し船腹需給が引き締まっていることなどから上昇し、現在は51ドル/トン前後で推移している。

今後は、南米産大豆の輸送需要が引き続き堅調であることなどから、底堅く推移するものと見込まれる。

〔外国為替〕外国為替は、3月上旬には149円前後で推移していたが、米国の関税政策により米国の景気悪化が懸念されたことなどからドルが売られ、4月中旬には一時139円台まで円高が進んだ。その後、日銀の早期利上げ観測が後退したことなどから、現在は144円前後で推移している。

今後は、日米の金融政策や米国の関税政策などに左右される相場展開が見込まれる。

以上から、為替円高やシカゴ定期の下落によりとうもろこしや大豆粕の価格が値下がりとなることなどから、7年7～9月期の配合飼料価格は前期比値下げとなる。

〔牛・豚肉の輸入数量予測〕7月牛肉は5・6%減、豚肉は2・3%増か

農畜産業振興機構は19日、国内の主な輸入事業者で構成される牛肉および豚肉輸入動向検討委員会を開催し、5～7月の牛肉と豚肉の輸入数量を予測した。

それによると牛肉輸入量は、5月は冷蔵品が1万5500t(前年同月比12・8%減)と前年を大きく下回るが、冷凍品が3万3100t(7・7%増)と増加し、合計4万8600t(0・2%増)と予測。6月は冷蔵品が1万5300t(13・6%減)と前年を大きく下回り、冷凍品は2万9900t(0・3%増)で、合計4万5200t(5・0%減)と予測。7月は冷蔵品が1万6600t(12・0%減)、冷凍品が3万t(1・5%減)で、合計4万6600t

(5・6%減)と予測。5～7月の3カ月平均は4万6800tと前年同期を3・5%下回ると予測している。

豚肉輸入量は、5月は冷蔵品が3万4800t(3・8%増)と増加するものの、冷凍品が5万4200t(10・5%減)と前年を大きく下回り、合計8万9千t(5・4%減)になると予測。6月は冷蔵品が3万4500t(14・2%増)、冷凍品が5万5700t(8・3%増)と共に増加し、合計9万200t(10・5%増)と予測。7月は冷蔵品が3万3700t(21・1%増)と大きく増加するが、冷凍品が5万4400t(6・7%減)となり、合計8万8100t(2・3%増)になると予測。3カ月平均は8万9100tと前年同期を2・1%上回ると予測している。

常陸牛振興協が通常総会、新会長に JA 全農いばらきの大和田氏を選任

茨城県常陸牛振興協会は18日、第49回通常総会を全農茨城県本部で開催し、令和6年度事業報告書、7年度事業計画案、常陸牛振興協会の規約(業務方法書)改訂など、上程議案を承認した。また、役員改選では、鴨川隆計会長の退任に伴い、新会長に JA全農いばらきの大和田晃県本部長(上写真)を選任した。

冒頭、大和田新会長は「6年度において、販売頭数、輸出量、販売店、海外推奨店は全て過去最高の実績となったことは、指定生産者をはじめ行政関係者などの協力のたまものである。今年は、指定生産者の方が自らホテルやレストランに出向き、積極的に営業する姿がみられたと報告いただいている。また、メディア戦略も功を奏しており、常陸牛の露出も極めて増えてきている。しかし、生活コストの上昇により、国民の和牛に対する消費意欲は伸び悩んでおり、枝肉価格にも表れている」と述べた上で「このような中、当協会では、海外輸出拡大を目指し対応してきた。国内の和牛の地域ブランドは300以上あるといわれている。他産地のブランドと差別化を図ることが課題となっている中、5年9月に発表した五つの認定基準を設けた「常陸牛 煌」も大変好評だ。いかに常陸牛指定生産者の手取りを増やし、経営を安定させるかというチャレンジでもあり、また、消費者にはおいしい常陸牛を安定供給していくことも大事だ。国内外の需給調整だけで海外輸出に取り組むのではなく、ブランディングとマーケット創出など、高みを目指して一丸となって頑張っていきたい」と語った。

6年度事業報告では、輸出成果として6年度輸出量5万2180・4kg(前年度比273・3%)と、前年度の2・7倍の輸出実績を達成したことが報告された。常陸牛販路拡大事業では、横浜ベイシェラトン&タワーズホテル、横浜ロイヤルパークホテル、ヒルトン東京ホテルなどで、常陸牛メニューを提供した。また、常陸牛トップブランド化として、常陸牛のさらなるブランド力強化を図るため、牛肉のおいしさに影響する脂肪の質に着目した新たな肉質基準を策定。「常陸牛 煌」においては、東京食肉市場で3月5日に開催された常陸牛枝肉共励会で、10頭がデビューした。

7年度事業計画では、出荷頭数目標について1万



1100頭と設定。販路拡大対策や流通・販売・交流研修会開催の支援、各種メディア活用のPR、常陸牛トップブランド化事業などが組まれるほか、輸出促進事業では、大手食肉業者2社に対し輸出体制の確立および支援体制を整備し、輸出につなげることなどが示されている。なお、今年度は5月末時点で、1万5千kg超えの輸出実績となっており、その中では、サウジアラビアでのハラール向け輸出が実現している。

常陸牛振興協会の規約(業務方法書)改訂では、常陸牛の認定基準について、出荷牛の生後出荷月齢は、おおむね30カ月齢とし、出荷下限月齢は27カ月とすることが承認された。これについては、7年の11月1日のと畜日から適用される。

同協会の新役員体制は次のとおり。

[会長] 大和田晃(新任) [副会長] 橋本武二、中川徹、三宅建史(新任) [専務理事] 松本茂 [理事] 福田英仁、櫻村裕章、仁藤健二、中島君江(新任)、菅田衆一、藻垣良一、内田敏雄、根本和彦 [監事] 吉田繁樹(新任)、鈴木一郎、白土和範

「2025数字でみる食肉産業」発刊、食肉に関するデータを網羅

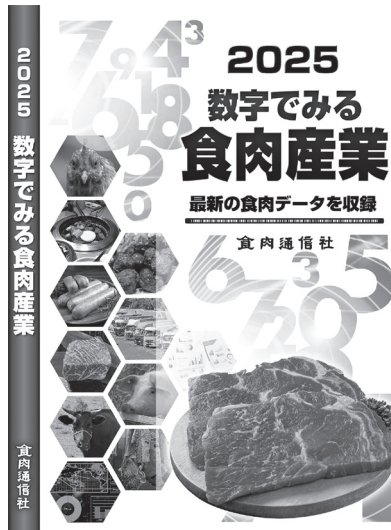
食肉通信社では、食肉業界の皆さまから多大な評価をちょうだいしている「数字でみる食肉産業」の2025年版を発刊いたしました。

「2025数字でみる食肉産業」では、食肉産業に関係するさまざまな関連資料、統計資料をまとめており、新しい酪肉近、家畜改良増殖目標の数値も掲載しています。わが国のみならず世界各地の近年の情勢、過去からの推移などを網羅的に把握できる書籍となっております。

さまざまに変化する時代や環境に対応するには、正確なデータに基づく将来の見通しが欠かせない要件です。本書は情報を正確に把握し、対応を見極める一助となります。内容は、複数の項目で構成されております。

食肉センター関連では、全国各地のと畜頭数の推移や枝肉生産量の推移、と畜場の分布・流通量、格付実績。生産では、家畜飼養頭羽数・飼養戸数の推移、SPF種豚と認定工場の分布、家畜の生産費。

合わせて配合・混合飼料の生産量、配合飼料価格の動向、近年の飼料穀物の輸入状況、配合飼料価格安定制度の概要について掲載しています。また、食肉輸入の推移として、食肉の輸入数量および金額の推移、種類別・輸入先国別輸入量、米国・豪州の牛



枝肉カットチャートを掲載。

需給については、牛・豚・鶏肉需給と在庫、出回り量。消費動向では、世帯別の肉類支出金額・購入数量、食肉の消費構成割合を網羅。国産・輸入牛・豚・鶏肉価格の推移も掲載しています。

食肉加工品では、年次別全国生産量、POS売れ筋ランキング、主要食肉加工メーカー業績、種類別輸入先国別輸入量を紹介。そのほか

外食市場規模の推移、業態別売上動向や、主要国の牛・豚・鶏・その他の生産量・消費量・輸出入量、フィードロットの動向、パッカーランキングについても記載しています。

B5判で文字もみやすく、充実したデータ本となっております。企業経営上の基礎資料、部門戦略の検討資料、新入社員の社内研修用テキストなど、幅広くご利用いただいています。お早めのご購入をお勧めいたします。

〔書籍概要〕 図書名 「2025数字でみる食肉産業」▷体裁 B5判468ページ▷定価4191円(税込み、送料別)▷ご注文方法 冊数・ご所属・お名前・ご住所・電話番号を明記の上、FAX06(6538)5510、もしくは当社ホームページ<https://www.shokuniku.co.jp/shop>まで。

【鶏肉輸入数量予測】7月は計4万5050 tで13・0%減

日本食肉輸出入協会は19日、鶏肉輸入動向検討委員会を東京都内で開催し、5～7月の鶏肉輸入数量を予測した。それによると、5月は計4万9800 t(6・5%減)で、ブラジルが3万4千 t(15・4%減)、タイが1万5千 t(25・6%増)、米国が750 t(32・1%減)、その他の国が50 t(約2・1倍増)

6月は計5万100 t(1・5%増)で、ブラジルが3万5千 t(0・7%減)、タイが1万4600 t(8・4%増)、米国が450 t(25・5%減)、その他の国が50 t(20・6%減)。7月は計4万5050 t(13・0%減)

で、ブラジルが3万1千 t(12・8%減)、タイが1万3500 t(13・0%減)、米国が500 t(28・3%減)、その他の国が50 t(56・3%増)と予測している。

鶏肉の輸入については、価格優位性や国産鶏肉の高値傾向などを背景に、外食、総菜を含めた中食などの好調な需要に支えられ、引き続き堅調に推移している。

ブラジルにおける高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生については、リオグランデ・ド・スル州モンテネグロ市での発生に続き、マツ・グロソ州

カンピナーポリス市、ゴイアス州サント・アントニオ・ダ・バーハ市での続発が報告されているが、わが国における輸入規制については、発生市単位での停止にとどまるため、直接的な影響はほとんど生じていないと思われる。同国におけるHPAI発生に伴う輸出減

少に起因して現地価格が緩和している模様である。

今後も、同国における続発を含めた国内外でのHPAIの発生動向のほか、不透明な為替や入船遅滞などの動向についても、引き続き、注視していく必要があるとしている。

大阪・関西万博を記念し、ウルグアイ国立食肉協会らが「ウルグアイデー記念レセプション」を開催、業界関係者が参集

大阪・関西万博でウルグアイ館を運営するウルグアイ投資輸出促進庁(ウルグアイXXI)とウルグアイ国立食肉協会(INAC)は17日、大阪市住之江区のグランドプリンスホテル大阪ベイで、「ウルグアイデー記念」と称したカクテルレセプションパーティーを開催。関係者を招き、ウルグアイビーフやワインなどのプロモーションを行った。

ウルグアイは南アメリカ南東部に位置し、ブラジル、アルゼンチンと国境を接している共和制国家。国土の大半が草原であるため、牛肉生産に適した地域で、約340万人の人口に対して4倍の牛が飼養されている。牛肉は成長ホルモン不使用のため、やや小ぶりだが、赤身のおいしさが特長となる。

当日は、大手食肉卸、輸入商社、外食企業関係者ら多数が参集。政府・協会関係者らのスピーチの



後、ウルグアイの音楽やサンバショーなどが催されて会場を華やかに彩ったほか、ウルグアイ産のワイン、ウルグアイビーフのヒレ、キューブロール、牛タン、BBQや、牛ヒレを使用したミートパイやミニバーガー、キューブロール串など多彩な料理が供された。

アイルランド政府がトレーディングミッション、東京と大阪の2都市

アイルランド政府は、6月11～14日の4日間、農業・食糧・海洋省マーティン・ヘイドン大臣の率いる政府貿易使節団によるトレードミッションを実施した。同ミッションは、アイルランド政府食糧庁Bord Bia(ボード・ビア)が主催し、東京と大阪の2都市で開催された。東京では、農水省および厚労省などの日本政府関係者、主要乳業企業の経営陣、さらに大阪では日本中央競馬会(JRA)との面会を実施。アイルランドの高級牛肉、乳製品、飲料、シーフードなど、アイルランドの高品質な食品・飲料のさらなる日本市場参入に向けた協議、またプロモーション活動が実施された。

今回のトレードミッションの成果について、マーティン・ヘイドン大臣は「今回の日本訪問は非常に

実りあるものだった。日本政府関係者との対話を通じて、アイルランド産食品・飲料の高い品質、安全性、そして持続可能性を強調できたことは、両国の関係強化において非常に重要なステップとなった。アイルランドの輸出業者、特に消費者向け食品、乳製品、アルコール飲料、肉製品の商機を拡大する大きな後押しとなると確信している」と述べている。また、ボード・ビアのジム・オトゥールCEOも「今回のトレードミッションは、日本市場がアイルランドの農産物および食品産業にとって、いかに重要であるかを改めて示すものとなった。今週は、今後数年間にわたり継続的な成果をもたらすであろう、日本の主要なパートナーとの関係をさらに強化することができた非常に有意義な時間だった」と振り返った。

大阪・関西万博カナダビーフセミナー③

大阪・関西万博会場のカナダパビリオンで行われた「カナダビーフセミナーEXPO2025」では、カーギルジャパンの石井竜男社長、(左写真)、JBS JAPANの有本太郎シニアアカウントマネジャー(中写真)、オンタリオ畜牛肥育家協会の下嶋大介アジア代表(右写真)が、それぞれの立場からカナダビーフに対して、生産状況や品質優位性について述べた。要旨は次のとおり。

【カーギルジャパン 石井社長】当社は米国、カナダ、オーストラリアにプラント(工場)を展開している。カナダにあるプラントはハイリバー工場、ゲルフ工場。後はビーフパテの工場を持っており、日本向けにはこの三つの工場に対応している。ハイリバー工場は1989年に操業し、当時としては北米で一番新しいプラントであった。

日本は1991年に牛肉自由化となったため、自由化の最初期からご愛顧いただいている。こちらの工場では生産される食肉の特徴としては、大麦育ちで脂が白く断面が美しい。あっさりとした脂質と評価を受けている。一方、ゲルフプラントは2005年に操業し、トロント空港からも近く、比較的街に近い場所にある。こちらの工場ではカナダでは珍しくコーン主体で肥育された牛肉で、品質のブレが少ない。カナダは非常に日本の消費者からのイメージが良い。そうした良いイメージをプロモーションにうまく生かすことが重要だと認識している。今回の、カナダパビリオンにも、そうしたヒントがあるのではないかと。

【JBS JAPAN 有本マネジャー】新興国の経済発展により、タンパク質からエネルギーを摂取する流れは世界的に広がっている。カナダの冷涼な気候は肉用牛を育てるのに理想的であり、穀物生産が盛んな国であるため、穀物肥育牛に適している。JBSなら1工場のみで生産・供給を行うことができ、輸出向けのマインドが高い。従業員の定着率も高く、安定した品質での供給が整っている。カナダ

最大の肉用牛生産地の一つであるアルバータ州にあるJBSのブルックス工場は1日4200頭の生産キャパシティを持ち、西部エリアにおいて40%の生産シェアがある。現在、敷地の隣には最新の設備を備えた物流センターを建設中。JBSカナダでは、プレミアムブランドから価格訴求のブランドまで幅広い商品をそろえている。

【オンタリオ畜牛肥育家協会 下嶋アジア代表】オンタリオ州はカナダのコーンベルトの東側に位置しており、とうもろこしの生産が非常に盛んな地域で特産品でもある。そのため、とうもろこしを主原料として生産されたおいしい肉をオンタリオコーンフェッドビーフとして提案している。私たちが訴求したいブランド理念のポイントは「農場から食卓への一貫生産」であること。厳格な品質保証プログラムを実施しており、現在600戸の生産者が加盟。カナダ全体の10分の1ほどがこのプログラムに沿って生産している。日本市場には2015年から輸出しており、25年は10周年の節目の年。7月29日には10周年記念レセプションを行う予定だ。

対日戦略としては、明確に差別化を進め、エリアマーケティングをしながらステーキフェアなどのブランド展開を実施し、消費者へアピールしていきたい。

続いて、カナダ大使館アルバータ州政府の高尾メアリーベス商務官が、カナダの豊かな環境やサステナブルへの取り組みなどについて語った。セミナー終了後は、豪州パビリオンの見学ツアーを行い、懇親会に。カナダビーフを用いた多様な料理が供され、歓談に移った。(連載終わり)



揚げたて総菜がリピーターを呼ぶーリライズコンサルティングの調査報告

精肉店の「揚げたて総菜」が、今再評価されている。精肉と比較すれば価格は決して高くないが、コロッケやメンチカツなどがリピート来店店の原動力になっていることが、リライズコンサルティング(株)の調査で分かった。

同社がこのほど実施した生活者調査(全国精肉店利用者800人)では、総菜を利用しているお客ほど、来店頻度が高い傾向がみられた。精肉は数日分のまとめ買いができるが、調理済みの総菜は基本的に当日中に食べる必要があり、「精肉中心に購入する人」と「肉総菜中心に購入する人」がいるとして、まとめ買いがしにくい分、後者の方が来店頻度は高くなる。調査結果をみても、精肉のみのお客よりも総菜利用者の方が来店頻度は高い。もちろん総菜は単なる“ついで買い商品”でもあるが、「総菜があるからこそ買いに行きたい」という来店動機にもなっていると考えられる。

この背景には、共働き世帯の増加や女性の就業率上昇といった社会構造の変化がある。総務省「労働力調査」によると、令和4年時点の労働人口に占める女性の割合は44.9%(過去最高)、特に25~54歳の就業率はいずれも80%超という状況だった。

仕事や子育てに忙しい家庭では、「1品だけでもすぐ出せる」総菜の存在がとても大きい。さらに、揚げたての香りや温かさは、食品スーパーのパック総菜にはない店頭限定の体験価値。“あの揚げたてを

また食べたい”という動機が、自然と定期来店につながっているといえる。これからの精肉店経営においては、「売れる商品」を探すだけでなく、「また来てもらえる商品」を設計する視点が欠かせない。

また、精肉は目利きによって高い品質の商品を品ぞろえすることは可能だが、他店と差別化するポイントでは総菜の方が貢献度は高いといえる。精肉のおいしさは素材の質だけでなく、調理方法(技術)などにも左右される。総菜として調理までを行うことで、おいしさをダイレクトに伝えることが可能だ。揚げ物は調理や後始末の面倒さもあって、家庭で作るにはハードルが高く、「手軽に」「すぐに食べれる」「おいしい」といった要素は価格以上の価値を提供できるものとなり、リピーター獲得に期待できる商品となり得る。

利用頻度	精肉のみ客	総菜利用客
週に5回以上	0%	1.17%
週に3~4回程度	1.75%	3.94%
週に1~2回程度	26.32%	27.41%
月に2~3回程度	26.32%	31.20%
月に1回程度	24.56%	23.62%
2~3ヶ月に1回程度	21.05%	12.68%
合計	100%	100%

※リライズコンサルティング調査(全国精肉店利用者800人)

伊藤ハムが一口サイズの「ゴロゴロサラダチキン」を新発売

伊藤ハムはこのほど、「じぶんプラス」サラダチキンシリーズから一口サイズの「ゴロゴロサラダチキンプレーン」と「ゴロゴロサラダチキンスモークタイプ」の2品を発売した。

新商品は食べやすい「ゴロゴロ」とした一口サイズの大きさにカット。カット済みなのでそのままサラダや麺のトッピング、つまみなど、さまざまな食シーンで楽しめる。原料肉には脂質の少ない鶏のササミ肉を使用。しっとり軟らかな食感のプレーンタイプと、しっかりとスモークを効かせ、風味豊かに仕上げたスモーク

タイプの2種類となっている。



【輸入牛現物相場】豪州産Cはロイン、ランプがタイト

豪州産チルドは引き続き、カタ、モモ中心の引き合い。ポイントなどバラ系は動きが重く、在庫が増えつつある。ロインやランプは現地の相場高もあり買い付けができておらず、市中在庫はタイトだ。米国産チルド

ドはバラ系中心に動きが重い。梅雨という季節要素、米の高騰も影響しているようだ。その中でもチャックアイロールは一定相場を維持して動いている。

豪州産フローズンはひき材中心の引き合いだが、ナーベルも値頃感からそれなりに動いている。米国産はショートプレートの在庫量が多く、1千円を下限に提案しているが、引き合いは小さい。トランプ関税によって米国産の相場推移は不透明だが、現状では国内の消費が弱く買い付けを絞っており、相場は現状を維持するのではないだろうか。

輸入牛肉現物相場

円/キロ

	商品名	グラス	ショートグレイン
豪州産C	トップサイド	1,350 ~ 1,450	1,410 ~ 1,500
	シックフランク	1,330 ~ 1,450	1,480 ~ 1,550
	アウトサイド	1,270 ~ 1,350	1,380 ~ 1,450
	ポイント	1,250 ~ 1,350	1,350 ~ 1,450
	ナーベル	1,100 ~ 1,250	1,180 ~ 1,250
	ランプ	1,600 ~ 1,650	1,750 ~ 1,950
	クロッド	1,270 ~ 1,400	1,340 ~ 1,450
	チャックロール	1,400 ~ 1,550	1,550 ~ 1,650
	チャックテンダー	1,420 ~ 1,600	1,500 ~ 1,700
	キューブロール	3,200 ~ 3,500	3,970 ~ 4,600
	ストリップロイン	2,180 ~ 2,400	2,450 ~ 2,700
	テンダーロイン	3,950 ~ 4,500	4,700 ~ 4,800
豪州産F	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,350中心	-
	ナーベル	980 ~ 1,150	-
	カウミート	980 ~ 1,200	-
	トップサイド	1,300 ~ 1,400	-
	シックフランク	-	-

	商品名	チルド	フローズン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,650 ~ 1,750	1,550 ~ 1,650
	ショートプレート	1,150 ~ 1,250	1,000 ~ 1,100
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,800 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	3,200 ~ 3,510	3,300 ~ 3,400
	ストリップロイン(チョイス)	3,300 ~ 4,000	-
	リブアイロール(リップオン)	5,000 ~ 5,500	-
	テンダーロイン	5,000 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
	チャックアイロール(チョイス)	1,950 ~ 2,450	1,650 ~ 1,850
	同(プライム)	2,500 ~ 2,600	1,850 ~ 2,500

【ブロイラー市中現物相場】国産生鮮ムネの引き合い強まる

◇国産物 日経加重平均の東京相場は生鮮モモで830円前後、生鮮ムネで530円前後の高値が続いている。生鮮モモは気温の高まりによる需要減と相場高も重なり、動きは鈍い。生鮮ムネは涼味食材として、引き合いが一層強まった。冷凍物はおおむねもちあいで推移している。

◇輸入物 真夏に向かい、比較的需要の薄い時期でもあり、各国産、各部位ともおおむねもちあいで推移している。「夏の行楽や、旧盆の帰省に伴

うスナック需要などの仕入れが本格化するの7月以降ではないか」との声もきかれた。

単位:円/キロ

ブロイラー現物相場 単位:円/キロ	
国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	630~680
ムネ正肉(〃)	440~460
手羽モト(〃)	290~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

輸入物	
米国産モモ正肉(240gUP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350gUP)	350中心
米国産BIL	550~570
ブラジル産モモ正肉	430~440
ブラジル産モモ角切り	450~470
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	430~450
ブラジル産手羽サキ(50gUP)	600中心
タイ産モモ正肉	480~490
タイ産モモ角切り(25~30g)	460~470
米国産モモ串	玉なし

[資料] 日本食肉流通センター週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉

(令和7年6月8日~6月14日)

(単位:キログラム当たり円、税込み、重量kg)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量
		和牛チルド「4等級」										
	首都圏	3,510	4,152	4,400	4,018	8,111		3,456	3,828	4,212	3,807	7,152
		3,348	3,600	3,682	3,596	12,546		3,564	3,834	4,158	3,847	7,995
		2,160	2,192	2,960	2,283	2,024		2,190	2,975	2,986	2,840	1,508
		-	-	-	-	650		-	-	-	-	-
		8,100	9,180	9,936	9,033	1,949	近畿圏	8,640	9,355	10,017	9,339	2,642
		5,113	5,370	6,901	5,775	5,484		5,292	5,617	5,832	5,567	6,952
		5,585	5,967	6,000	5,859	3,157		-	-	-	-	340
		1,868	2,160	2,645	2,162	13,725		1,890	2,595	3,348	2,615	8,597
		3,902	3,969	4,212	4,026	4,536		3,617	4,169	4,320	4,072	2,450
		3,887	3,996	4,227	4,048	4,307		3,726	4,320	4,320	4,145	2,089
		3,977	4,158	4,428	4,135	4,278		3,879	4,169	4,320	4,195	2,063
		3,240	3,456	3,780	3,438	3,635		3,506	3,618	5,292	3,929	1,082
		1,944	1,998	2,210	2,000	3,239		1,998	2,055	2,182	2,081	3,381
		4,154	4,220	4,224	4,200	20,733		3,482	3,694	3,942	3,747	13,936
		3,618	4,095	4,546	4,207	25,166		3,456	3,769	4,320	3,805	14,609
	重量合計					113,540						74,796
	中京圏	3,445	3,445	3,445	3,445	1,318		3,510	3,672	4,104	3,753	1,005
		3,132	3,393	3,564	3,399	1,117		-	-	-	-	773
		2,700	2,819	3,197	2,861	1,017		-	-	-	-	381
		-	-	-	-	462		-	-	-	-	249
		4,860	5,076	5,161	5,070	1,354		-	-	-	-	706
		1,836	1,944	3,024	2,091	2,255	九州圏	1,674	1,782	3,045	2,004	2,422
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	215
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	663
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	339
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	333
		-	-	-	-	-		-	-	-	-	675
		3,632	3,780	3,942	3,781	1,011		-	-	-	-	-
		3,772	3,772	3,772	3,772	4,426		3,413	3,770	3,977	3,755	5,397
	重量合計					12,960						13,158

(令和7年6月8日~6月14日)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量
		交雑牛チルド「3等級」										
	首都圏	2,700	2,781	3,132	2,813	8,170		2,755	3,021	3,348	3,025	13,356
		2,376	2,691	2,918	2,675	6,144		2,400	2,568	2,692	2,535	8,127
		2,136	2,183	2,520	2,277	3,191		1,491	1,566	1,628	1,556	4,013
		5,940	6,337	6,431	6,223	3,376	近畿圏	6,264	6,641	6,874	6,610	3,860
		4,050	4,150	4,752	4,303	5,538		4,450	4,680	4,860	4,677	9,178
		1,458	2,916	3,430	2,540	9,858		1,566	1,620	2,136	1,689	10,918
		2,376	2,484	2,592	2,494	3,226		2,445	2,512	2,754	2,563	4,835
		2,538	2,646	2,899	2,677	3,325		2,430	2,592	2,754	2,584	4,667
		2,511	2,754	2,945	2,741	2,257		2,484	2,646	2,700	2,632	4,642
		2,146	2,160	2,268	2,171	2,171		2,160	2,268	2,476	2,285	5,626
		1,534	1,588	1,620	1,581	3,093		1,523	1,620	1,781	1,642	6,032
		-	-	-	-	-		2,538	2,699	2,905	2,709	7,566
		2,920	3,162	3,456	3,173	21,475		3,024	3,078	3,240	3,119	38,045
	重量合計					71,824						120,865

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量
		乳牛チルド「3等級」										
	首都圏	2,400	2,627	3,030	2,703	3,613		2,427	2,986	3,348	2,852	3,867
		-	-	-	-	740		1,755	1,922	2,084	1,927	6,329
		-	-	-	-	393		-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-		2,362	2,808	3,510	2,832	1,245
		-	-	-	-	-		1,296	1,328	1,512	1,334	2,931
		5,184	5,400	5,724	5,423	1,767	近畿圏	4,860	5,562	5,886	5,467	2,532
		3,132	3,329	3,456	3,281	1,387		3,186	3,456	3,920	3,450	4,762
		1,404	2,708	3,001	2,470	3,595		1,339	1,717	3,132	1,926	6,636
		2,074	2,134	2,273	2,163	2,056		1,998	1,998	2,127	2,015	6,758
		2,110	2,110	2,268	2,150	2,983		1,744	1,966	2,052	1,945	1,447
		2,052	2,240	2,268	2,195	1,640		1,836	1,987	2,068	1,984	2,961
		-	-	-	-	580		1,836	1,998	2,160	1,997	2,178
		1,512	1,512	1,674	1,537	1,347		1,512	1,574	1,758	1,589	3,834
		2,529	2,534	2,534	2,533	16,139		1,781	1,868	1,979	1,895	27,664
	重量合計					36,240						73,144

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 6月19日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,062	2,301	2,058	-	-
		安値	2,037	2,021	1,835	-	-
		平均	2,363	2,098	1,972	-	-
	109頭	頭数	70	34	5	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,567	2,258	2,004	-	-
		安値	2,069	2,000	1,818	-	-
		平均	2,451	2,096	1,941	-	-
	139頭	頭数	102	33	4	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	1,847	-	-	
1頭	頭数	-	-	1	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,588	1,547	1,431	-
		頭数	-	2	11	6	-
	雌 C	平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 B	平均	-	1,673	1,554	1,456	-
26頭	頭数	-	5	15	6	-	
去 C	平均	-	-	1,435	1,298	-	
5頭	頭数	-	-	3	2	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	330 387	938 810	- 188.5	(競り)	(相対)	- 67

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,259	1,588	1,557	1,456	-
	B	-	-	1,446	1,325	1,247
和 去	A	-	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	978
	C	-	-	-	1,050	986
乳 去	B	-	-	-	1,222	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,610	1,487	1,249	-
	C	-	-	1,348	1,354	-
交 去	B	1,628	1,616	1,503	1,436	-
	C	-	-	1,353	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	799	816	782	754	715
	安値	747	702	639	464	231
	平均	763	749	705	666	484
	頭数	(9)	(336)	(277)	(89)	(99)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

[大阪食肉卸売市場] 6月19日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,301 (頭数 20)	2,101 (9)	1,833 (2)	- (-)	- (-)
B	1,998 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
和 去 A	2,432 (頭数 17)	2,192 (4)	- (-)	- (-)	- (-)
B	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,695	1,638	-	-
C	-	-	1,512	-	-
交雑去 B	-	1,772	1,637	-	-
C	-	-	-	-	-
豚	-	739	725	658	484

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	6月19日	6月18日	(6月累計)
豚	61,600	54,000	827,800
成牛計	3,920	4,400	56,150
和牛雌	990	1,370	14,720
和牛去勢	1,190	1,140	15,370
乳牛雌	620	580	7,570
乳牛去勢	370	390	5,760
交雑雌	430	440	5,520
交雑去	320	470	7,160

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 6月19日

	東京	大阪
	1,488円(前日 1,520円)	1,638円(前日 1,649円)

[豚・全農建値] 6月19日

上	中	取引頭数	市況
769円	737円	1,023頭	弱もちあい

と畜 売買	牛 73頭 牛 81頭	豚 44頭 豚 118頭	牛概況 豚概況	もちあい 急落
----------	----------------	-----------------	------------	------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 6月19日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	734 (724)	- (-)	5,914	-	上伸
仙台 [中]	759 (760)	686 (438)	255	77	小反落
栃木 [地]	757 (794)	708 (773)	1,364	50	続落
茨城 [地]	772 (779)	747 (753)	1,184	752	下押し
群馬 [地]	765 (762)	691 (677)	2,060	157	小幅高
さいたま [中]	784 (763)	768 (759)	143	143	反発
東京 [中]	749 (773)	705 (752)	938	810	急反落
横浜 [中]	775 (781)	740 (752)	610	575	下押し
山梨 [地]	801 (777)	767 (756)	172	143	反発
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	799 (814)	759 (778)	919	222	下押し
京都 [中]	761 (-)	752 (-)	67	95	もちあい
大阪 [中]	739 (768)	725 (752)	44	86	急落
神戸 [中]	718 (-)	735 (-)	48	125	-
岡山 [地]	698 (736)	651 (676)	232	244	反落
広島 [中]	- (764)	- (735)	373	5	-
福岡 [中]	761 (746)	726 (712)	386	94	上伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 6月12日～6月18日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,576,170 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,201	1,296	1,378	1,285	77,211
うで	842	906	951	905	128,658
ロース	1,166	1,242	1,334	1,258	128,463
ばら	1,274	1,326	1,404	1,334	151,341
もも	842	902	950	899	159,735
ヒレ	1,188	1,193	1,213	1,200	14,011
セット	1,092	1,113	1,172	1,117	916,751

◇近畿圏 総重量 692,760 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,242	1,381	1,460	1,374	56,212
うで	810	878	903	873	105,874
ロース	1,187	1,284	1,320	1,275	90,827
ばら	1,296	1,334	1,377	1,338	124,193
もも	850	879	961	892	154,802
ヒレ	1,253	1,347	1,404	1,338	10,510
セット	1,037	1,167	1,255	1,164	150,342

[食鳥正肉日経相場] 6月18日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	753	812	1,030	3
ムネ	483	532	618	2

[農水省統計情報部食鳥市況] 6月17日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	1,105	744	550	600	650
安値	720	475	290	360	350
平均	845	543	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉通信社の本

2025数字でみる食肉産業

最新刊

最新の食肉データを収録



定価

4,191円

(本体 3,810円 + 税別)

◆図書名=「2025数字でみる食肉産業」

◆体裁=B5判468ページ ◆内容=食肉需給と見通し、食肉生産の動向、家畜と生産、飼料の動向、食肉輸入の推移、WTO・EPA等の合意内容、畜産業振興事業、家畜疾病と食肉流通、トレーサビリティ関連、在庫・出回り量、食肉消費と支出金額、食肉価格の推移、食肉加工品の動向、食肉関連製品の動向、食肉販売の動向、外食の動向、世界の食肉統計、日本の主要食肉生産者・食肉取扱施設

お申し込みは食肉通信社 (FAX=06-6538-5510) まで

年 月 日

2025 数字でみる食肉産業 購入申込書

会社名(氏名)

購入部数

冊

〒

所在地(住所)

ご担当者名

TEL

株式会社

食肉通信社

大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06 (6538) 5505 FAX 06 (6538) 5510
TEL 03 (6206) 0929 FAX 03 (6206) 0928
TEL 092 (271) 7816 FAX 092 (291) 2995